

高等  
科用  
普通讀本

高橋熊太郎編

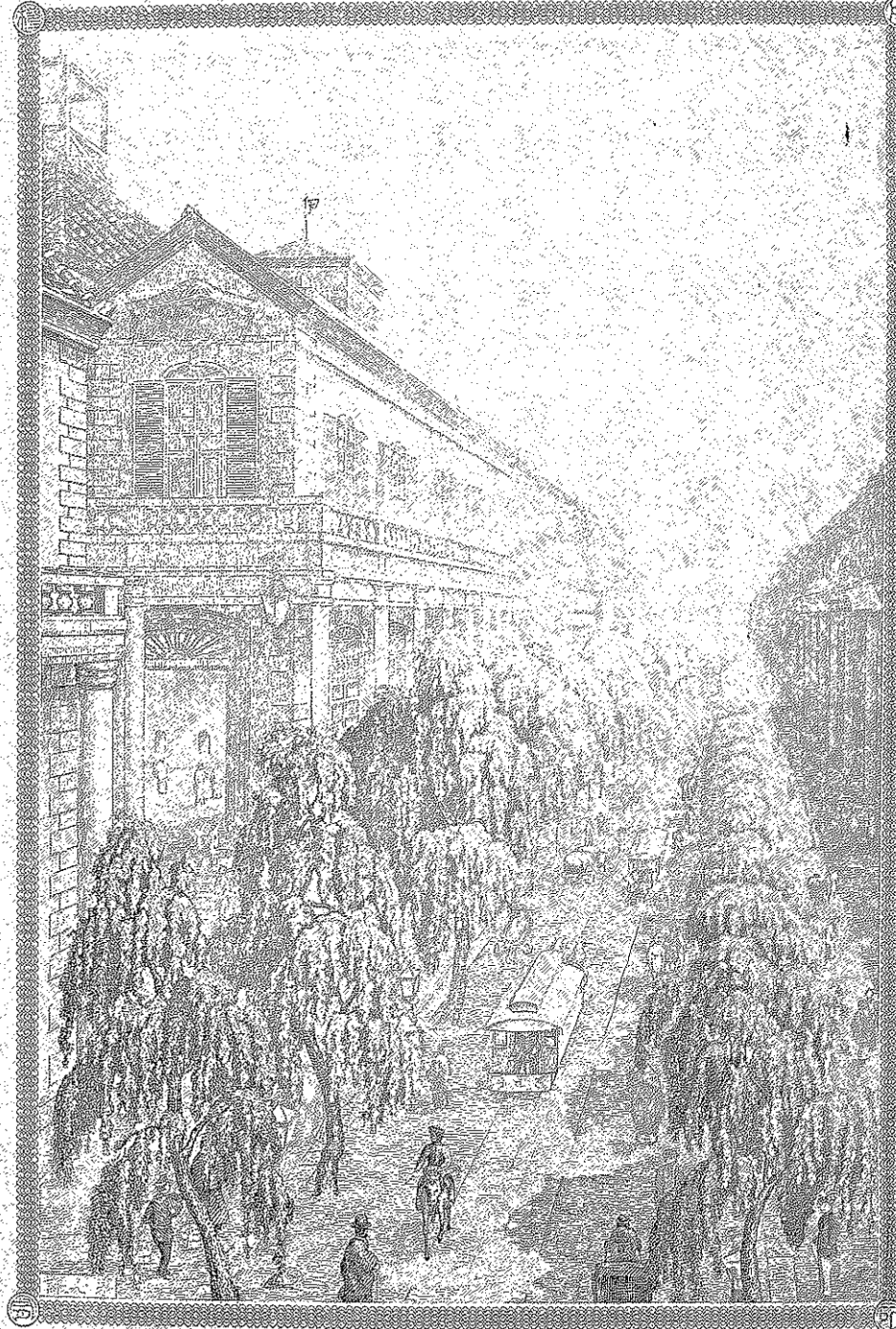
一編下

T1A3

10

Ta33

明治二十九年九月二十六日  
 文部省檢定濟



高等普通讀本二編下目次

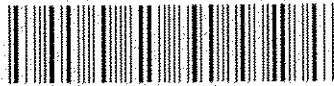
第一課	四時ノ變遷	一丁
第二課	勉強ノ功	三丁
第三課	小宮山内膳ノ忠節	五丁
第四課	習慣ノ性	七丁
第五課	新潟函館ノ二港	八丁
第六課	植物ノ話其四 果實	十丁
第七課	人生ノ三需	十三丁
第八課	忠恕ノ道	十六丁
第九課	身體ノ機關其四 血管及呼吸	十七丁

高等普通讀本

二編下目次

集英堂發行

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 7 6 5 a

福岡教育大学蔵書

第十課 簡相如ノ大度

十九丁

第十一課 楨杵ノ用

二十丁

第十二課 爬虫類ノ一科

二十三丁

第十三課 著名ノ都會

二十六丁

第十四課 寶盛ノ染鬢

二十九丁

第十五課 河流ノ作用

三十丁

第十六課 人ノ鑑

三十三丁

第十七課 奇橋

三十七丁

高等科用 普通讀本二編下目次

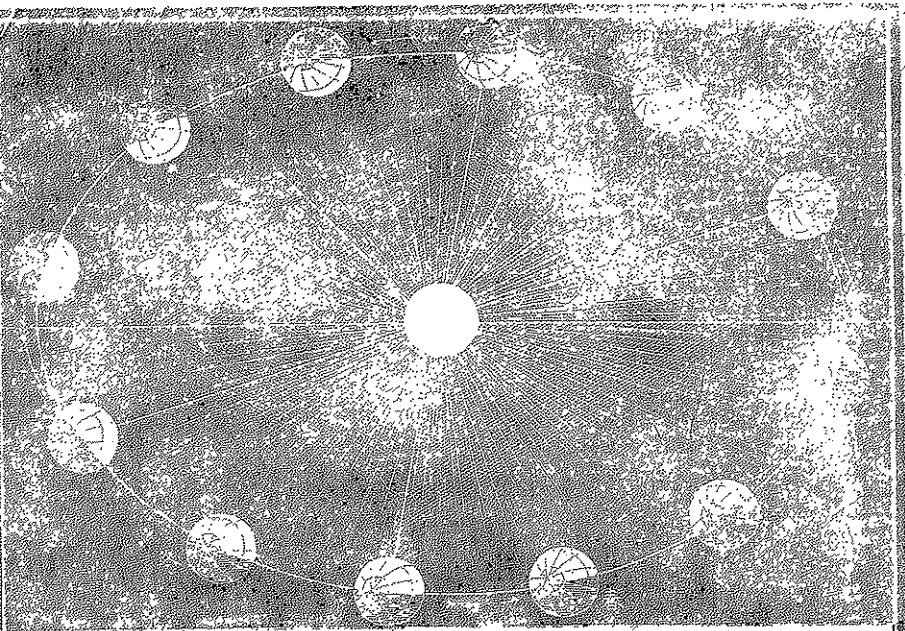
高等科用 普通讀本二編下

高橋熊太郎 編

第一課 四時ノ變遷

春ハ山々笑ヲ含ミ、百花錦ヲ綴リテ楊柳絲ヲ垂  
 レ、輕風漸ク軟カニシテ、天氣先ツ暖ナリ。新燕ハ  
 舊巢ヲ尋子テ翩々トシテ飛ビ、蛺蝶ハ花香ヲ求  
 メテ喃々トシテ舞ヒ、景象總テ快然タリ。實ニ一  
 年ノ好景ハ三春ニ在リト謂フベシ。夏ハ三伏ノ  
 炎熱人ヲ蒸シ、流汗雨ノ如ク、午天ノ長キニ苦マ  
 シムレドモ、清風ノ檐ニ坐シ、綠陰ノ下ニ立チ、水

雪ヲ喫ミ松韻ヲ聞カバ、滿身清爽ノ愉快ハ、磨フルニ物ナカルベシ。秋ハ慘澹トシテ愁ヲ含ミ、吟養啣々ノ聲、過雁點々ノ影、一トシテ哀レヲ添ヘザル者ナシ、故ニ秋氣ヲ肅殺ノ氣トハ謂ヘリ。然レドモ天高ク月白ク萬象ノ清澄ナルハ、秋夜ノ景ニ如クモノナシ。故ニ秋ハ又人ヲシテ高妙ノ感、悲憤ノ情ヲ起サシムル者ナリ。冬ハ霜雪イト深ク、綿衣ヲ襲又ルモ寒氣尚肌ヲ侵シ、爐邊ニ圍藥スルモ肌膚尚粟ヲ生ズ。窓ヲ開テ外ヲ望メバ、唯見ル皎然タル一面ノ銀世界。サレド陰極テ陽



ヲ生ジ、春信ハ早ク巳ニ梅梢ノ上ニ在リ。一歳ノ間四時相移リ巳マザル者ハ、抑何ノ理ゾ。之ヲ原ヌルニ地球ノ運行ト地軸ノ方向トニ外ナラス。地球黃道ヲ一周スルニ當リ、地軸ノ方向正シク黃道ノ面ニ直立スルトキハ、日輪ノ照ラス所周歲變ゼズシ

テ赤道ハ常ニ日光直射シ、温帯ハ終始春暖ノ氣  
候ニ在リ、晝夜長短ノ差モナク、四季ノ變遷モナ  
カルベシ。然レドモ地軸ハ斜ニ傾クコト二十三  
度半ナリ。故ニ地軸ハ日輪ニ向フ時アリ、背ク時  
アリ、向フ時ハ光ヲ受クルコト直ニシテ、背ク時  
ハ斜ナリ是レ寒暑ノ起ル原因ナリ。春ト秋トニ  
在テハ、地軸日輪ニ向ハズ背カズ、日輪直ニ赤道  
ノ上ニ在テ、滿天下晝夜長短ナク、春秋二分ノ時  
ナリ。前圖ハ地球ノ軌道及ビ其地軸ノ斜メニ黃  
道面ニ傾ク位置ヲ示スモノニシテ、漸チ追テ氣

候ヲ變遷スルコト推知スベシ。  
四時變遷ハ右ニ説ク所ノ如クナレバ、地球ノ運  
行ト地軸ノ方向トニ變動アラザレバ、萬世節序  
ヲ誤マルコト、無シ。  
第二課 勉強ノ功  
蜂ハ夏日其食ヲ貯ヘテ冬日ノ用ニ供シ、鳥ハ陰  
雨ニ先ダチ桑土ヲ取テ、其巢ヲ綢繆ス。無心ノ蟲  
鳥スラ、猶然リ、況ヤ人ハ萬物ノ靈ナレバ、堅ク志  
ヲ立テ、黽勉ノ功ヲ積ミ、以テ其業ヲ成スベシ。  
人ハ始メヨリ賢愚ノ差別アルモノニアラス、唯

勉ムルト勉メザルトニアルノミ。故ニ才子モ才  
 チ恃メバ才ナラズ、愚人モ愚チ守レバ愚ナラズ、  
 英才トハ他ナシ、勉強力ノ別名ナリ。蓋シ機轉敏  
 捷ノ才智ハ器械ノ如ク、勉強忍耐ノ徳ハ、動力ノ  
 如シ。器械如何ニ利便ナルモ、其器ヲ運轉スルノ  
 動力ナクンバ、何ヲ以テ物品ヲ製造スルヲ得ン、  
 何ヲ以テ事業ヲ遂グルヲ得ン。古ヨリ大業ヲ成  
 シ、者ヲ見ルニ、顯門素封ノ家ヨリ出デタルモ  
 ノ誠ニ干ニテ、多クハ貧苦ノ人ナルハ何ゾヤ。是  
 レ富貴ナレバ、逸樂放肆ニ時ヲ費シ、醉生夢死ノ

間ニ歲月ヲ送レバナリ。故ニ古人ノ言ニ曰ク、苦  
 辛ハ良師友ニシテ、貧困ハ創造ノ母ナリト、真ニ  
 至言ト謂フベシ。

昔會津侯、山崎闇齋ニ其樂ム所ヲ問ヒタルコト  
 アリ。闇齋答ヘテ曰ク、臣ノ樂一ナラズト雖モ、就  
 中最大ナルモノハ、公侯ノ家ニ生レズシテ、卑賤  
 ニ生レシコトナリ。何トナレバ世ノ公侯タル者  
 チ見ルニ、深宮ノ中ニ生レ、婦人ノ手ニ長ジ、逸樂  
 ニ沈湎シテ、生涯ヲ夢寐ノ間ニ送り、天授ノ良心  
 チ湮滅スルニ至ル、之ヲ彼ノ飢寒困窮ニ其體ヲ

苦メラレ、良師益友ニ其徳ヲ磨カレシ者ニ比スレバ、其相去ルコト幾何ゾヤ。是レ臣ガ公侯ノ家ニ生レザルヲ最大ノ樂トスル所以ナリト。闇齋ハ少時赤貧洗フガ如ク、書ヲ讀ムノ志アルモ、書ヲ買フノ金ナシ。因テ宅ヲ書肆ノ隣ニ僦リ、其書ヲ借テ誦讀スルコト晝夜止マズ、遂ニ一代ノ儒宗ト仰ガレ、門人ノ多キコト六千人ニ餘リシト云フ。

學事ヲ修ムルヲ螢雪ノ業ト曰フ。是レ孫康ト車胤トノ故事ヨリ出デタルコトナリ。孫康ハ晋ノ

人ナリ、性廉潔ニシテ妄ニ人ニ交ラス、家貧ウシテ油ヲ買フハ資ナシ、雪フルゴトニ之ヲ集メ、其光ニ映ジテ書ヲ讀ミシガ、後遂ニ御史大夫ノ官ニ擢デラレタリ。車胤モ亦晋ノ人ニシテ、貧困苦學、孫康ニ譲ラス。夏秋ノ夜ハ囊ニ數十ノ螢ヲ盛リ、其光ヲ假リ書ヲ讀ミテ止マザリシカバ、遂ニ博覽ノ士トナリ、談論ヲ善クセシヲ以テ、衆人ノ尊崇ヲ得、坐ニ車公ナケレバ樂シカラズト稱セラレ、又吏部尚書ノ貴職ニ登リシト云フ。勉強ノ功豈ニ偉ナラズヤ。

第三課 小宮山内膳ノ忠節

武田勝頼ノ臣ニ小宮山内膳ト云フ者アリ嘗テ其僚友ト事ヲ争ヒ、雨ナガラ屈セズ、遂ニ之ヲ勝頼ニ訴フ。勝頼讒言ヲ偏信シテ内膳ヲ非トシ、之ヲ却ク。内膳自ラ罪ナクシテ黜ケラル、ヲ知レドモ、君ノ不明ヲ彰ハスヲ恐レ、敢テ冤ヲ伸ブルコトヲセズ。

天正十年織田ノ軍甲斐ニ攻入り、勝頼每戰皆敗レ、故府ヲ棄テ、天目山ニ奔ルニ及ビ、主從僅ニ四十二人、内膳之ヲ聞キ忠憤ニ堪ヘズ、急ギ其跡

ヲ追ヒ、途ニシテ勝頼ニ逢ヘリ。因テ前キノ事ヲ争ヒシモノ、及ビ讒者ノ事ヲ問フニ、既ニ皆逃匿セリト聞キ、内膳慷慨久ウシテ侍臣ニ謂ヒテ曰ク、我曩日黜ケラレタル身ヲ以テ、今君ノ難ニ赴クハ、君ノ明ヲ損スルニ似タリト雖モ、又生ナガラ國ノ傾覆ヲ見テ、死ヲ致スコト無キハ、臣タルノ義ニ非ザルナリ。寧口君ノ明ヲ損スト雖モ、曷ゾ義ヲ傷フコトヲ爲サンヤト、遂ニ四十二人ト共ニ國難ニ殉ス。

其後徳川家康深ク其忠節ニ感ジ、祭祀ノ絶ユル



科用普通言本 二編下  
ヲ憐ミ、其弟又七郎ヲ徵シテ、要職ニ任ジ、以テ後  
人ノ龜鑑トナス。古語ニ曰ク忠以テ私ヲ忘レ、專  
心能ク君臣ノ間ヲ輯睦シ、社稷ヲ安ンズ、則チ天  
地ヲ感ゼシメ神明ヲモ動カス、況ンヤ人ニ於テ  
チヤ、惟天ハ人ヲ監シ、善惡必ズ應アリ、而シテ善  
ハ忠ヨリ大ナルナク、惡ハ不忠ヨリ大ナルナシ、  
忠ナレバ福祿至リ、不忠ナレバ刑罰加ハルト。内  
膳ノ如キハ、克ク其私ヲ忘レ、心ヲ一ニシテ君ニ  
事ヘ、忠節ヲ全ウシ福祿ヲ遺セシ者ト云フベキ  
ナリ。

第四課 習慣ノ性

凡ソ靜體ハ、外力之ヲ動カスニ非ザレバ、依然ト  
シテ其居ヲ移スコトナク、或ハ動體ニシテ外力  
邀ヘテ之ヲ鎮定スル無ケレバ、永久平等ノ速力  
ヲ以テ直進シ、自ラ其動ノ速度ト方向トヲ變ズ  
ル能ハザルベシ。管ニ動靜ニ於テ然ルノミナラ  
ズ、固體ノ液體ニ變ジ、液體ノ氣體ニ變ズルモ、亦  
皆此變化ヲ生ズ可キ原因ナクンバアラス、是チ  
物ノ惰性ト曰フ。萬物一モ免ル、能ハザルノ通  
性タリ。但動ノ直進シテ止マズト曰フハ、常理ニ

背ク所アルガ如シ。然レドモ少シク之ヲ察スレバ、疑團釋然タルヲ得ベシ。蓋シ物ノ動クヤ、一トシテ外力ノ働ヲ被ラザルモノナケレバナリ。外力トハ何ゾ、摩擦、引力及ビ空氣ノ抵抗是ナリ。故ニ此等ノ外力愈減ズレバ、動ノ持續スルコト愈久シキヲ得ベシ。今一二ノ實例ヲ舉ゲ、以テ此性ヲ證セントス。茲二人アリ、靜止セル船車ニ佇立スルトキ、俄然舟車ノ進行ニ遇ヘバ、其人必ズ背後ニ顛倒セントス。或ハ進行セル舟車忽焉停止スルトキハ、爲メニ前面ニ傾覆セントス。是舟車

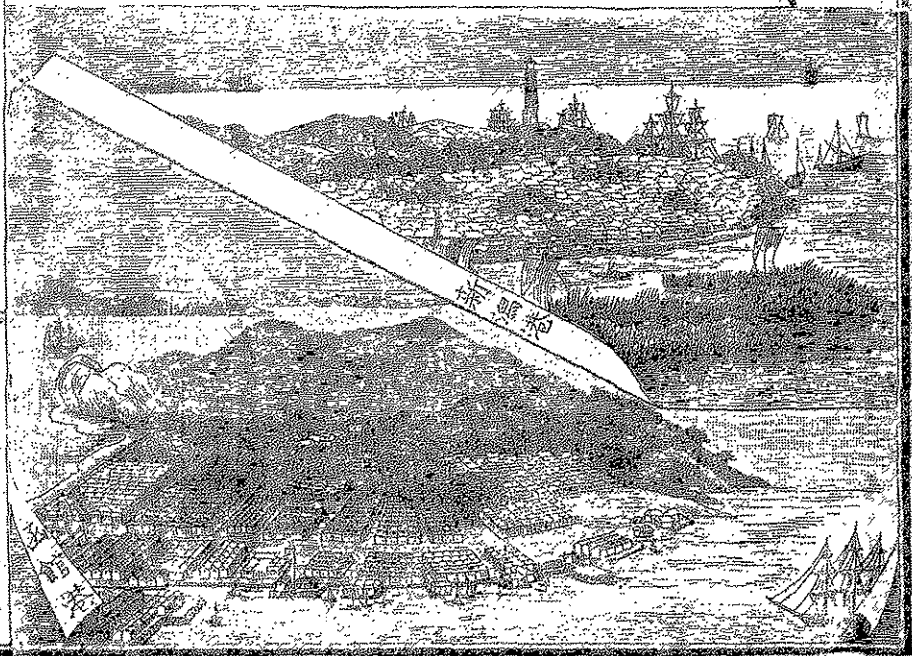
ト觸ル、體ノ一所ノミ、舟車ノ動靜ヲ喫シ、上部ハ尚情性アリテ初ノ如クナラントスレバナリ。情性ハ特ニ萬物ニ於テ然ルノミナラス、人心モ亦此通性ヲ免ル、能ハズ。故ニ性相近シ習相遠シト曰ヒ、又習慣ハ第二ノ天性ナリト曰フ。夫レ快樂ノ情旺シテ止マザレバ、終ニ活潑有爲ノ習慣ヲ成シ、痛苦ノ感結ビテ解ケザレバ、遂ニ悲慘鬱悒ノ習慣ヲ成ス。一善ヲ行フ毎ニ、正感愈旺シ、一惡ヲ行フ毎ニ、惡感益長ズ。習慣一タビ成レバ、其勢人ノ能ク遏止スベキニ非ズ、終身ノ利害得

利州 三 卷 二 一 第 一 章 一  
失多クハ習慣ノ正邪如何ニ因テ岐ル、者ナレ  
バ、平素細行ト雖モ之ヲ顧ミ、一舉一動モ苟モセ  
ズ、累々漸積シ、務メテ美德ノ習慣ヲ大成ス可シ。

第五課 新潟函館ノ二港

新潟ハ越後國ニ在リ、東京ヲ距ルコト九十里、其  
位置信濃川ノ左岸ニ沿ヒ、四傍洞開シテ丘岳ナ  
ク、眺望極メテ佳ナリ。屋宇稠密市街清潔、人口三  
萬七千餘、新潟縣廳ノ在ル處ニシテ明治二年以  
降ノ外國互市場タリ。溝渠四通シテ舟楫ノ便ア  
リ。商業甚ダ盛ニシテ貨物四方ヨリ輻湊ス。然レ

ドモ年々信濃川溢レ、土  
砂ヲ流シ、港口ニ堆積シ  
爲メニ水ヲ淺カラシム  
ルガ故ニ、大艦巨船ヲ碇  
泊スル能ハズ。港後ニ小  
岡アリ、日和山ト云フ、近  
時此ニ燈臺ヲ設置シ、入  
港船ノ目標トス。總テ此  
地方ハ、冬時雪多ク、海上  
波高クシテ、航海甚ダ艱



難ナリトス。

函館ハ、渡嶋國ノ極南ニアリ、陸奥ト相對ス。故ニ古來奥羽地方ヨリ年々此ニ移住スルモノ多シ。安政六年新ニ外國互市場トナシ、奉行ヲ置テ之ヲ管司セシム。王政維新後改メテ函館府トナシ、開拓使ノ管スル所トナリ、後ニ縣治ニ改メ、現今ハ北海道廳ノ所轄ニ屬ス。此港南ニ臥牛山突出シ、北ハ山麓ヨリ一條ノ地峽連亘シテ龜田ニ達ス。即チ風濤ヲ避クルニ宜ク、且ツ灣内水深キヲ以テ、内外ノ船舶常ニ碇泊シ、貿易甚ダ隆盛ナリ。

市街ハ臥牛山趾ヨリ地峽ノ上ニ連リテ、戸數六千ニ餘リ、人口三萬ニ近クシテ、商業殷盛本道第一ノ都會タリ。又龜田ノ近傍ニ於テハ、冬日氷ヲ製造シ、夏日ニ至リ多ク之ヲ諸國ニ輸出ス。

第六課 植物ノ話

其四 果實

諸子試ニニ林檎ヲ取テ之ヲ切斷セバ、其内ニ種子アルヲ看ルベシ。種子ハ則チ始メ花ノ内部、雌蕊ノ底ニ於テ生育スルモノナリ。蓋シ紅色ノ花瓣ト絲狀ノ雄蕊トハ、悉ク凋落シテ、特ニ綠色ニ

シテ堅キ部分ノミ、種子ノ周圍ヲ繞テ之ト共ニ生長ス。

斯ノ如クシテ種子ト花ノ底部ト次第ニ成熟スレバ、即チ内ニ種子ヲ包ミテ、圓大ナル林檎トナルナリ。今此種子ヲ圍繞スル肉ノ部分ハ、果シテ何ノ用ヲカ爲スト問ハバ、諸子必ズ是唯吾人ガ食料ニ供スル爲メナリト答フルナラン。

此言信ニ然リ。然レドモ是猶其一ヲ知テ其二ヲ知ラザルモノトス。蓋シ林檎ノ種子ノ長育スル際、此肉之ガ屋宇ト爲ルナリ。即チ之ヲ被覆シテ

風雨ノ害ヲ免レシメ、蟲類ノ蝕蝕ヲ避ケシム。斯ノ如クシテ單弱ナル種子モ、其長養ヲ遂ゲテ、自ラ硬皮ヲ作り、外物ノ侵犯ヲ防グニ足ル。

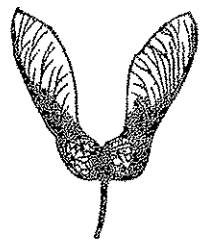
即チ斯ノ如ク種子ヲ庇包スルノ屋宇ヲ稱シテ果實トハ云フナリ。果實ハ敢テ諸子ガ之ヲ食フト否トニ關セズ、種子ヲ保護スルヲ以テ、其本分ノ務トスルナリ。故ニ植物ニシテ人ノ食フ能ハザルノ果實ヲ生ズルモノ甚ダ多シ。

又果實ニ非ザルモノヲ、誤テ果實ト看做スナキ能ハズ。尋常ノ馬鈴薯ノ如キハ、敢テ果實ニ非ズ、

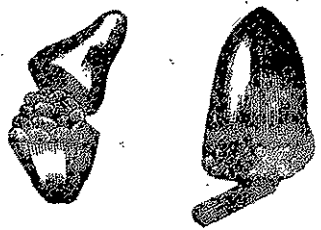
塊莖ト稱スル粗大ナル疣物ニシテ、此植物ノ地下ノ莖ニ生ズル所ナリ。試ミニ馬鈴薯ヲ截斷スルニ、絶テ其中ニ種子ヲ見ルコトナカルベシ。然レドモ馬鈴薯ニハ實ニ種子ナキニアラズ、其花其果實、其種子皆地上ニ在リ。蕃柿ノ如キハ之ニ反セリ。蕃柿ハ其根ニ塊莖アルコトナシ。吾人ガ常ニ蕃柿ト稱スルハ、美麗ナル果實ニシテ、若シ之ヲ切り開カンニ、其中ニ認め得ル物ハ、無數ノ種子ニアラズヤ。以テ其果實タルヲ知ルベシ。

今夫レ馬鈴薯ト蕃柿トノ草ハ、其外形甚ダ相類似シ、共ニ同一科ノ植物タリ。然レドモ蕃柿ハ其果實ヲ食フベク、馬鈴薯ハ其塊莖ヲ食フベシ。甘藷モ亦果實ニアラズ、此植物ニ生ズル塊莖即チ疣物ナリ。而シテ其花ト果實トハ、之ト同類植物ナル牽牛子ノ花ト種子トニ似タリ。然レドモ牽牛子ハ塊莖ヲ有スルコトナク、花ハ甚ダ美麗ニシテ愛スベシ。此故ニ植物ニ生ジテ、吾人ガ食料ニ供スルモノ、必ズシモ皆果實ナラズ。然レドモ種子ヲ包裹ス

ルモノハ、悉ク果實ナルコトヲ了セザルベカラズ。夫ノ蠶豆ノ莢ハ、實ニ果實ナリ。莢ハ熟スルニ及ビ、凋枯シテ破裂シ、其中ニ熟スル所ノ種子ヲ出ス。即チ蠶豆ナリ。豌豆ノ如キモ亦然リ。豌豆ハ其植物ノ種子ニシテ、莢ハ其果實ナリ。果實ハ其形狀一ナラスト雖モ、概子圓ナラザルハ少ナシ。林檎、櫻、梅、梨、桃、西瓜ノ如キ以テ見ルベシ。堅果、漿果ノ如キニ至テモ亦皆圓ナリ。然レドモ此等ノ如ク圓形ヲナサザルモノ亦アリ。槭樹ノ種子ハ、圖中ニ示ス如キ果實ヲ有シ、稱



シテ翅果ト云フ。即チ二個ノ種子密接シテ蒂端ニ附着ス。而シテ種子ヲ包ム所ノ厚クシテ圓ク、其左右ニ薄片ヲ出ダス。之ヲ翅ト云フ。果實既ニ熟スレバ、枝ヨリ脱シ、風ニ逢ヒテ四方ニ散飛ス。



榲桲ハ殊ニ帽殻ヲ有ス。又形狀函ノ如キ果實ヲ生ズル植物アリ。其熟スルニ及ビテ蓋自ラ離レ脱シ、種子ハ其函ナル果實ヨリ露出ス。馬齒莧ノ如キ亦此種ノ果實ヲ生ズ。上圖ニ示

七ルハ、内部ニ種子充斥シテ、蓋ノ將ニ脱落セン  
トスル狀ニ係レリ。夫レ既ニ述ブルガ如ク、葉ト  
花ニハ數多ノ形狀アリ。然ラバ則チ果實ニ於テ  
モ、亦種々ノ異形ヲ見ルベキハ誠ニ其理ナリ。

### 第七課 人生ノ三需

何レノ國ニ於テモ、人生日用ノ缺ク可カラザル  
者ハ、衣服、飲食、住居ノ三ナリ。貧富都鄙ノ差別ニ  
依リ、分ニ應ジテ、其質ニ粗ナルト美ナルトノ別  
コソアレ、多少此レヲ兼子備ヘザレバ、人事ヲ全  
ウシ、生命ヲ保スル能ハズ、故ニ之ヲ人生ノ三需

トイフ。此等ハ開ケタル國ホド善ク備ハルモノ  
ニテ、又之ヲ得ルハ人力ニ因ルト雖モ、畢竟其本  
ハ皆天地ノ惠ニ關シ、即チ草木、禽獸等ノ、各、土地  
ニ應ジテ生長スルハ、皆其人民ノ需用ニ供スル  
爲メナリ。然レドモ事物開ケザル國ニ於テハ、土  
中ニ穴ヲ穿チテ之ニ棲ミ、獸皮ヲ剥ギテ之ヲ纏  
ヒ、復タ家屋、衣服ヲ製スルヲ知ラズ、禽獸、菓物ヲ  
索メテ之ヲ食ヘドモ、耕シテ糧ヲ獲ルノ道ヲ悟  
ラズ。此等ヲ皆夷狄又ハ野蠻ト名ケ、無智慧蒙ノ  
人民トス。其天地ノ惠ヲ活用スルノ智ナクシテ、



衣食住ニ缺ク所多ケレバナリ。儲食ヲ得ルノ本ハ、農業ト牧畜トニ在リテ、獵漁之ニ次グ。都テ穀類及ビ蔬菜、果實ヲ植エ付ケ、時季ニ從ヒ收メテ食用ニ供スルガ中ニモ、我國ニテハ米穀ヲ主トシ、西洋ノ如キハ小麥ヲ主トス。小麥ハ粉ニ製シ、焼キテ麵包トシ用フ。又鳥獸魚介ノ食ニ充ツベキ者、固ヨリ甚ダ多ク、西洋ニテハ特ニ肉食ヲ重ンジ、牛肉ヲ第一トス。故ニ牧畜ノ業極メテ盛ナリ。但シ野菜ト肉類トヲ適宜ノ割合ニ用フルハ、尤モ滋養ニ功アル者トス。要ス



ルニ食物ハ、密ニ飢ヲ凌グノ爲メノミニ非ズ、原ト身體ヲ健旺ナラシムルニアレバ、敢テ麁食ニ安ンズルヲ以テ、儉徳ナリト思フ可カラズ、麁食ニ過グレバ、氣力ヲ薄クシ、健康ヲ害シ、勤學ナドノ爲メニモ妨ゲ多シ。然レドモ分ニ過ギタル美

食モ亦害アリ。且ツ口ニ美ニシテ、滋養ニ益ナキ者亦多シ、宜ク慎ムベキコトナリ。

山ニ材ヲ生ジ、林ニ木ヲ出スモ、亦是レ造化ノ恵ナリ。則チ伐テ家屋宮室ヲ造リ、風雨霜露ヲ凌グベシ。西洋ニテハ木材ヲ多ク用ヒズ、石或ハ煉瓦ニテ三階若クハ五階ニ營築シ、結構美麗ナル者多シ。或ハ全體鐵ヲ以テ造リタル者モ有リ。我國ニ於テモ、近來家屋ノ製漸ク洋風ニ模擬シ、諸官衙并ニ東京ノ銀坐通りヲ始メトシ、都會ノ地開港場等ニハ、往々煉瓦石造等ヲ見ルナリ。卷首ノ書

衣服ハ獨リ寒暑ヲ防グ爲メノミナラズ、寔ニ人間ノ儀表ヲ肅整修飾スルノ具ニシテ、開ケザル國民ホド露膚裸體ヲ耻トセズ。西洋ニテハ如何ナル邊郷僻地ノ寒民ト雖モ、體部ヲ暴露スルコト絶テ無シト云フ。

都テ衣服ノ効ハ、固ト身體ニ其溫熱ヲ與フルモノニハアラス、唯身體ノ溫熱ヲ保護スルノミナレバ、之ヲ導キ去ラヌ品種ホド善ク寒ヲ凌グベキナリ。

### 第八課 忠恕ノ道

人ノ世ニ處スルヤ、上ニ仰グ有リ、下ニ臨ム有リ、其關係ノ異ナルニ從テ、之ニ接スルノ道モ様々ナレドモ、一言以テ之ヲ貫ク可キ者アリ、忠恕ノ道是レナリ。夫レ己レノ欲セザル所、之ヲ人ニ施ス勿レトハ、忠恕ノ註解ニシテ、千古不朽ノ金言タリ。處世ノ秘訣之ニ過グル者無シ。己レ先ツ深切ナラズシテ、人ヲシテ深切ナラシメント欲シ、己レ先ツ考ナラズシテ、子ノ己レニ考ナラント欲スルハ、種ヲ播カズシテ秋獲ヲ得ント欲シ、原因ナクシテ結果ヲ求ムル者ナリ。白樂天詩アリ

曰ク、梁上ニ雙燕アリ、翩々タリ、雄ト雌ト、泥ヲ啣ム、兩椽ノ間、一巢ニ四兒ヲ生ズ、四兒日夜ニ長ジ、食ヲ索メテ聲發々タリ、青蟲捕ヘ易カラズ、黃口飽ク時ナシ、嘴爪弊レントスト、雖モ、心力疲ル、ヲ知ラズ、須臾ニ十タビ往來シ、猶巢中ノ饑エシコトヲ恐ル、辛勤スルコト三十日、母瘦テ雛漸ク肥タリ、哺々トシテ言語ヲ教ヘ、一々毛衣ヲ刷フ、一旦羽翼成リ、引テ庭樹ノ枝ニ上ル、翅ヲ舉テ回顧セバ、風ニ隨テ四モニ散飛ス、雌雄空中ニ鳴キ、聲盡キ呼ベトモ歸ラズ、却テ空巢ノ裏ニ入り、啜

歌トシテ終夜悲ム、燕々爾悲ム勿レ、爾當ニ返テ  
自ラ思フベシ、思フニ爾ガ雛タルノ日、高飛シテ  
母ニ背クノ時、當時父母ノ念、今日爾當ニ知ルベ  
シ。

第九課 身體ノ機關

其四 循血及ビ呼吸

消化機ノ作用ニヨリテ、食物變ジテ一種ノ滋液  
トナルト雖モ、若シ之ヲ全身ニ送ルモノナケレ  
バ、身體ノ榮養ヲ全ウスルコト能ハズ、血液循環  
ノ作用アリテ之ヲ全身ニ運送スルナリ。

胸部ノ左側ニ手ヲ當ツ

レバ、必ズ搏動アルヲ覺

エン。コレ心臟ト名クル

機器ノ搏動ナリ。心臟ハ

未開ノ紅蓮花ヲ倒ニ懸

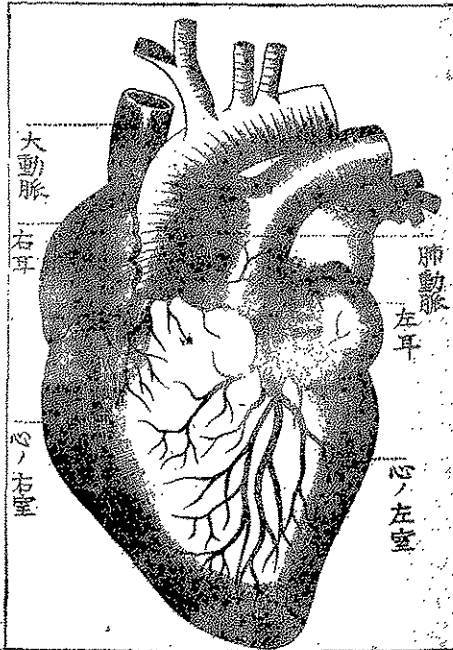
ケルガ如キモノニテ、大約拳大ノ小器ナレドモ、

血液運送ノ根本ナリ。其搏動ハ、即チ縮張ノ機動

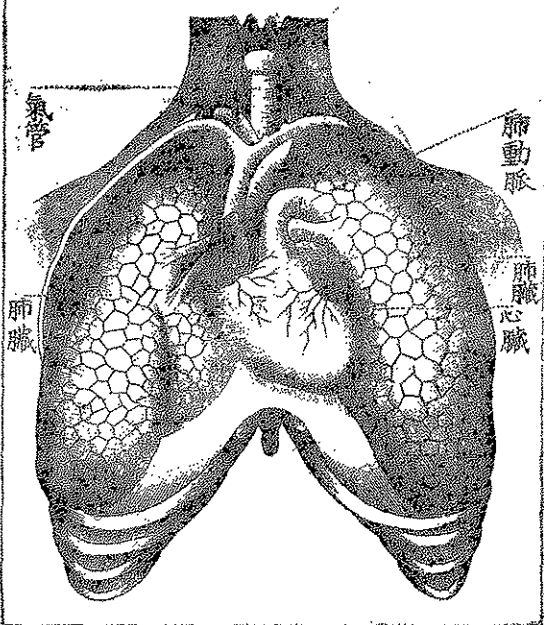
ニヨリテ、血液ノ出入ヲ促ガスナリ。血液ハ此搏

動ニヨリテ、心臟ヲ發シ、胃及ビ小腸ヨリ吸收セ

ル滋液ヲ帶ビテ、動脈ヨリ全身ヲ循環シ、各部榮



養ノ功ヲ遂ゲ、靜脈ヨリシテ再ビ心臟ニ歸ルナ  
 リ。試ニ手甲ヲ見ヨ、許多ノ青筋アラン。コレ血液  
 ノ歸路ニシテ、靜脈ト名クルモノナリ。  
 血液ノ初メテ心臟ヲ發スルトキハ、鮮紅清潔ノ  
 液ナレドモ、全身ノ營養ヲ遂ゲテ、心臟ニ歸ルト  
 キニ及ビテハ、化シテ暗青不潔ノ液トナリ、運營  
 ノ作用ヲ失フニ至ル。然ルニ、此暗青不潔ノ液ヲ  
 精製シテ、再ビ新鮮潔紅ノ液トナスノ機アリ。此  
 機ヲ名ケテ呼吸機ト云フ。口ヨリ空氣ヲ出スヲ  
 呼ト云ヒ、之ヲ入ル、ヲ吸ト云フ。此空氣ハ喉頭



ルトキ、氣管ト血管トハ、互ニ密接セルヲ以テ、血  
 液中ノ不潔物ハ、酸素ニ觸レテ、炭酸瓦斯トナリ、  
 呼出作用ニヨリテ體外ニ出ヅルノ機ナリ。コレ  
 ヲ呼吸機ノ血液ヲ精製シ、體溫ヲ保續スル作用

及ビ氣管ノ門路ヲ經テ、  
 肺臓ニ出入スルナリ。肺  
 臓ハ胸ノ左右ニアリ、其  
 狀海綿ノ如クニシテ、無  
 數ノ氣管ト血管トアリ。  
 肺臓中ニ空氣ヲ吸入ス

ノ概略トス。

血液循環ト呼吸機能トノ身體ニ緊急ナルコト  
斯ノ如クナレバ、僅ニ之ヲ妨グルモ忽チ諸病ノ  
基トナル。故ニ常ニ新鮮ノ空氣ヲ呼吸シ、又時々  
身體ヲ運動シテ、血液ノ循環ヲ促スベシ。是レ養  
生法ノ最モ肝要ナルモノナリ。

第十課 簡相如ノ大度

支那戰國ノ世、趙國ニ廉頗、簡相如ト云フ二人ノ  
臣アリ。頗ハ軍ニ將トシテ武功甚ダ多シ。相如嘗  
テ秦ニ使シ、俎豆ノ間ニ秦ノ君臣ヲ屈セシメ、璧

ヲ完ウシテ還リシ功ニ由リ、上卿ニ擢デラレ、位  
頗ノ上ニ出デシカバ、頗大ニ怒リテ、我百戰百勝  
功ヲ立ツル殆ド計フベカラズ。然ルニ今相如ガ  
微功ヲ以テ、一旦我上ニアルハ何ゾヤ。我若シ彼  
ニ遇ハバ、必ズ之ヲ辱カシメント罵リケレバ、相  
如之ヲ聞キ、病ト稱シテ朝セズ。或人相如ニ向ヒ、  
勇ナキニ似タリト詰リケルニ、相如曰ク、我先ニ  
強秦ニ使シテ、其王ヲ朝堂ニ叱セリ、何ゾ一人ノ  
廉將軍ヲ畏レンヤ。然レドモ今秦ノ趙ニ無禮ヲ  
加ヘザル所以ノモノハ、他ナシ。我ト廉將軍トア

ルヲ以テナリ。若シ兩雄相鬪ハ、俱ニ全キコトヲ得ベカラズ。然ルトキハ趙國隨ヒテ危カルベシ。我ノ彼ヲ避クルハ、國ヲ思ヘバナリト言ヒケリ。頗之ヲ聞キ大ニ羞テ、躬ヲ相如ノ家ニ到リテ罪ヲ謝シ、兩人竟ニ無二ノ朋友トナリ、互ニ力ヲ協セテ事ヲ謀リシカバ、趙國愈強カリシトゾ。此ノ如キハ一人ノ私利ヲ舍テ、一國ヲ濟セシモノト云フベキナリ。

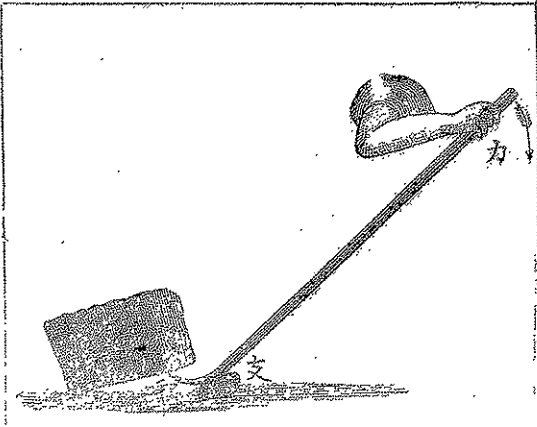
### 第十一課 槓杆ノ用

凡ソ器械ハ其用異ナルニ從テ、其構造モ千差萬

別ナレドモ、要スルニ力ノ方向ヲ變ゼシメ、且ツ時ヲ變ジテカト爲シ、若クハ力ヲ變ジテ時ト爲スニ在リ。器械中構造最モ簡單ニシテ利用最モ廣キ者ハ、槓杆ナリ。屈撓不可カラザル剛挺ヲ取テ、之ヲ一ノ支點上ニ安ンジ、支點ノ上下ニ運轉自在ナラシムル者、即チ槓杆ナリ。抑モ槓杆ニ三種ノ別アリ。

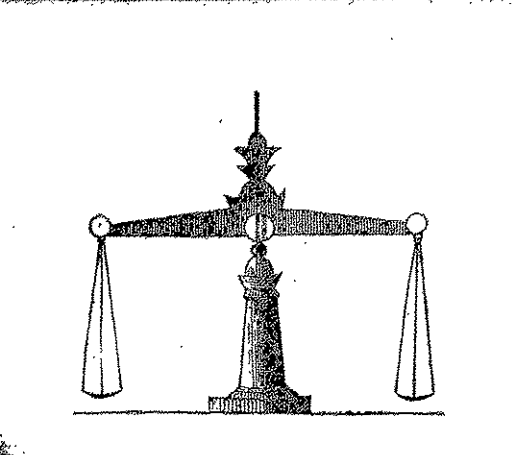
支點中間ノ位置ヲ占メ、カト重ト之ヲ挾ム者ヲ第一種トシ、支、力、兩端ニ在テ、重、中間ニ在ル者ヲ第二種トス。第三種ハ第二種ノ重トカト其處ヲ

異ニシタル者ナリ。支點ヨリカ  
 點ニ至ル槓杆ノ長サヲ力臂ト  
 云ヒ、其重點ニ至ル者ヲ重臂ト  
 云フ。重臂ニ重ヲ乗ゼル積ト、力  
 臂ニ力ヲ乗ゼル積ト、差等ナキ  
 ヲ以テ槓杆ノ平準ヲ得タル者  
 トス。故ニカト重トノ關係ハ、兩臂ノ長短ニ比例  
 シ、力臂愈長ケレバ物ヲ舉グルコト愈重キヲ得  
 ベシ。此理ヲ以テ之ヲ推セバ、一人ノ力、遂ニ以テ  
 地球ヲ動カスヲ得ベク、三尺ノ童子亦能ク烏獲



ノ任ニ勝ユルヲ得ベシ。器械ノ功豈亦洪大ナラ  
 スヤ。

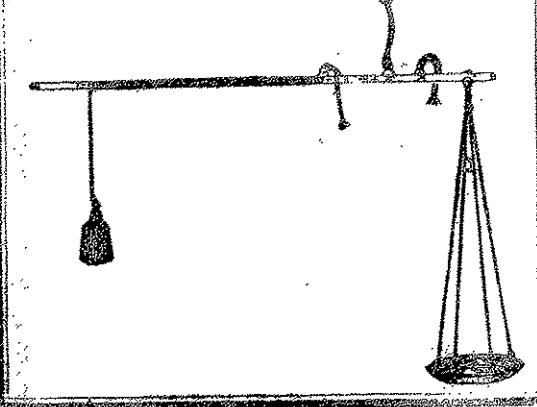
世間必需ノ用具ニ、權衡ト名クル器械アリ。其構  
 造ハ一ナラザレドモ、其理ハ全ク第一種ノ槓杆



ニ外ナラズ。上圖ニ示セル者ハ、  
 多ク物理、化學等ニ用フル權衡  
 ニシテ、其構造ハ、一條ノ柱軸ニ  
 槓杆、即チ衡ヲ駕シ、兩臂ヲシテ  
 長短相均シカラシメ、臂端ニ各  
 一個ノ權盤ヲ懸ク。正中ニ一針



科用...  
 アリ、針ノ用ハ兩盤ノ重量相均シケレバ、直ニ下  
 ヲ指シ、若シ然ラズシテ、左重ケレバ右ニ偏シ、右  
 重ケレバ左ニ偏シ、以テ重量ノ一重一輕ヲ示サ  
 シメ、其左右ニ偏スル距離ヲ見易カラシメン爲  
 メニ、針ノ背後架柱ノ半身ニ當テ、  
 分度ヲ刻セル弧形ノ一板ヲ施セ  
 リ。是レ此器ノ大要ナリ。此器ヲ以  
 テ物ヲ量ラント欲セバ、一盤ニ其  
 物ヲ載セ、一盤ニ法馬ヲ盛リ、針ノ  
 真直ナルヤ否ヲ見テ、其輕重ヲ知



ルナリ。下圖ニ示セル者ハ、日常用フル所ノ權衡  
 ニシテ、用法ハ極メテ簡便ナレドモ、前者ノ如ク  
 精確ナラズ。

第十二課 爬蟲類ノ一科

爬蟲類ノ一科ヲ蛇類トス。蛇類ハ其軀體圓長ニ  
 シテ背ニ鱗アリ、腹ニ硬皮アリテ四肢ナシ。其歩  
 行進退スルニハ、屈伸自在ナル可撓性ノ脊椎骨  
 アルト、肋骨末端ノ他骨ニ連接セズシテ、前後ニ  
 運動シ得ルトニ由レリ。其舌ハ中央ヨリ分支シ  
 テ二條トナリ、味感ト觸感トヲ兼ヌ。齒ハ鈎狀ヲ

ナシ、銳利ニシテ物ヲ捕獲スルニ便ナリ。  
 蛇ノ種類甚ダ夥シ、動物學者ノ說ニ據レバ、無慮  
 六百三十餘種ニ下ラズトス。其中有毒ノ者ト、無  
 毒ノ者トアリ。有毒ノ者ハ、眼球ノ背後ニ毒液ヲ  
 分泌スルノ腺ヲ有シ、怒テ噬ムトキハ、コノ液上  
 腭ノ牙ヨリ發シテ、敵者ノ體中ニ注入シ、屢之ヲ  
 死ニ致スコトアリ、以テ己レガ護身ノ用ト爲ス。  
 就中熱帶地方ニ於テハ、毒蛇ノ爲メニ斃ル、人  
 畜ノ數年々萬ヲ以テ算フルニ至ル。  
 亞非利加及ビ南亞米利加ノ内地ニハ、往々巨蟒



ヲ産ス。其長サ三丈ヨリ  
 四丈ニ至リ、詰屈トシテ  
 蟠曲スルトキハ、老樹ノ  
 盤桓セルガ如ク、爬行ス  
 ルトキハ、逶迤トシテ洪  
 濤ノ伏起スルガ如シ。眼  
 ヲ瞪レバ雙鏡ヲ耀カシ、  
 舌ヲ吐ケバ火焰ヲ現ハ  
 ス。人馬牛羊皆捕ヘテ之  
 ヲ吞ムベシ。但シ餌食ス

高等下 一八一 二四

ベキモノヲ見ルトキハ、必ズ先ツ之ヲ數重ニ捲  
キ、壓縮シテ死ニ抵ラシメ、自ラ具涎ヲ出シテ全  
ク屍體ニ塗り、形容ノ變ズルヲ窺ヒ、然ル後大口  
ヲ張リ、咀嚼セズシテ徐ニ之ヲ嚙下ス。蓋シ蛇類  
ノ頤骨ハ、甚ダ動キ易キヲ以テ、自身ヨリ大ナル  
者ヲモ吞ムコト自在ナルナリ。  
蝮ハ蛇類ノ一種ニシテ、其體形ハ短小ナレドモ  
其毒尤モ恐ルベシ。頭ハ扁平ニシテ三角形ヲナ  
シ、腹ハ黒ク背ニ菱形ノ斑點ヲ呈シ、上腭ニ兩牙  
アリ、自在ニ伏シ又起スベシ、俱ニ各小溝ヲ具ヘ、

牙ノ尖端ヨリ通ジテ、劇毒ヲ蓄フルノ膜囊ニマ  
デ達ス。蝮ノ性タル熱國及ビ寒暖適度ノ地ヲ好  
ミ、北方沍寒ノ地ニ栖ムコト能ハズ。冬季ハ地中  
若クハ岩石ノ間ニ蟄伏シ、醉ヘルガ如ク死セル  
ガ如キモ、暖風和氣ヲ催スノ候ニ至レバ、始メテ  
元氣ヲ恢復シ、草徑ニ出デ、體軀ヲ日光ニ曝シ、  
小蟲ヲ捕獲シテ自ラ食トス。  
蝮ハ元來人ヲ見レバ輒チ逃匿ス。然レドモ人若  
シ故ラニ激怒セシメ、或ハ誤テ之ヲ履メバ、驚キ  
且ツ憤リテ忽チ咬傷シ、直ニ跡ヲ林叢ニ潜ム。而

科用...  
シテ其毒ノ最モ恐ルベキハ、七八月ノ交ニ在リ  
ト云フ。人不幸ニシテ此害ニ遭ハバ、急ニ瘡ヨリ  
上部ノ處ヲ緊紮シ、先ツ毒氣ノ蔓延ヲ防ギ、頓テ  
小刀ヲ以テ瘡口ヲ截開シ、能ク其血ヲ吮出スベ  
シ。吮ヒ終ラバ、アンモニアト名クル藥水ヲ瘡口  
ニ注入シ、食鹽水ヲ浸セル布ヲ以テ纏縛スベシ。  
氣候炎熱ノ時ハ、毒氣特ニ甚シケレバ、宜シク紅  
熾鐵ヲ以テ、瘡處ヲ焚灼スルヲ要ス。  
我國ノ沖繩縣ニ於テハ、飯匙倩ト稱スル一種ノ  
蛇アリ、其毒極メテ激猛ニシテ、人一タビ之ニ觸

レバ必ス死スト云フ。大島、徳ノ島ノ如キ、毎年此  
害ニ遭ヒ斃ル、者頗ル多シトゾ。

### 第十三課 著名ノ都會

名古屋ハ東京ヨリ西九十四里、京都ヨリ東三十  
餘里ニ在リテ、東海道尾張國ノ盛都會ナリ。南ハ  
官驛ニ連リテ内海ノ涯ニ達シ、西ハ庄内川ヲ隔  
テ、清洲ニ接ス。街衢數里ニ連延シ、東海、東山二  
道ノ要路ニ當リ、人口凡ソ十三萬、愛知縣廳ノ在  
ル處ニシテ、民庶ノ富饒、商業ノ繁盛、實ニ三府ニ  
亞ゲリ、其產物ノ著名ナルモノハ、名古屋扇、七寶

燒等ナリ。宮驛ニ熱田神社アリ、日本武尊ノ東征シテ凱旋スルニ方リ、此處ニ到リ、齋ス所ノ草雞劍ヲ留メテ奉祀スルモノト云フ。市街ハ内海ニ瀕シ、古ヘ愛智潟ト稱ス。是ヨリ伊勢ノ桑名ニ渡ル海上七里ナリ、之ヲ間遠ノ渡ト云フ。總テ此地ハ、土地平坦ニシテ海ニ近キヲ以テ、運輸頗ル便ナリ。

金澤ハ北陸道加賀國ニ在リテ、日本海ノ沿岸ヨリ入ルコト僅ニ二里許、人口凡ソ十萬八千、本道第一ノ都會ニシテ、石川縣廳ノ在ル處ナリ。犀川

ヲ右ニシ、淺野川ヲ左ニシ、城市宏壯、人煙ノ繁盛ナルコト、尾張ノ名古屋ニ次ゲリ。但此地ハ其近海ニ良港ナク、且ツ陸路モ東西ニ京ニ遠キヲ以テ、物貨ノ運搬自由ナラズ、殊ニ冬日ハ降雪多キヲ以テ、牛馬ノ通行モ自由ナラザルコトアリ。產物ノ主タルモノハ、九谷燒ノ陶器、象眼、細工ノ銅器等ナリ。

廣島ハ山陽道安藝國ニアリテ、大坂ヲ距ルコト西九十餘里、人口凡ソ七萬六千餘、市街一里許ニ連ナリ。廣島縣廳ノ在ル處ナリ。其富庶、名古屋、金

澤ニ一步ヲ讓ルト雖モ亦大坂以西ノ盛都會ナリ。大田川北ニ發シ、分レテ猫屋、元安、京橋、猿猴ノ四川トナリ、各市街ヲ貫キテ海ニ入ル。此地往時ハ五箇庄ト云ヒテ、海濱ノ砂原ナリシガ、毛利元就ノ中國ヲ兼併シ、吉田ヨリ遷リテ、此ニ定鎮セシ以來、今日ノ如キ繁華ヲ極ムルト云フ。總テ濱岸ハ灣曲シテ、群島其前面ニ並峙シ、自ラ一ノ内海ヲナス。宇品ニ繫泊處アリ、廣島ニ運輸スルノ船舶、皆入リテ投錨ス。此近海ハ淺處ニ牡蠣田ヲ設ケ、盛ニ牡蠣ヲ養ヒ、之ヲ諸方ニ輸出ス。

和歌山ハ南海道紀伊國ニ在リテ、紀伊川ノ河口ニ傍ヘリ、南和歌ノ浦ニ臨ミ、風光明朗市街繁殷人口凡ソ六萬二千、和歌山縣廳ノ在ル處ニシテ、本道第一ノ都會トス。大坂ヲ距ルコト十六里、水陸舟車ノ便アルヲ以テ、交通最モ頻繁ナリ。和歌ノ浦ハ古ヘ明光浦ト稱シ、著名ノ勝地ニシテ、河口ト相距ル二里、灣ノ周回二里許ニ亘リ、西南ニ向ヒテ洲アリ。名草山、其東ヲ限リ、眺望極メテ佳ナリ。此地方ニテ製スル所ノ紋羽織、綴通、足袋等ハ著名ナルモノナリ。

仙臺ハ東山道陸前國ノ大都會ニシテ、人口五萬六千餘、宮城縣廳ノ在ル處トス、東京ヲ距ルコト九十三里、北ハ一關、盛岡ヲ歷テ青森ニ至ルマデ、道程九十九里、市街ハ廣袤一里ニ亘リ、東西ノ正路ヲ大町ト云ヒ、南北ヲ國分町、南町ト呼ビテ、官道ニ屬シ、其十字街ヲナス處ヲ芭蕉辻ト稱シ、最モ熱鬧セリ。西ニ城址アリ、慶長七年伊達氏ノ營築ニ係リ、青葉山ヲ負ヒ、廣瀬川ヲ控ヘテ頗ル堅固ナリ、今ハ仙臺鎮臺ノ木營トナル。東隅ノ高岡ヲ躑躅岡ト云フ、宮城野ニ蜿蜒シテ東洋ヲ一望

スベシ。岡上兵營アリ、櫻樹多クシテ、開花ノ候ハ爛熳霞ノ如ク、遊人絡繹タリト云フ。此地ノ名産ニハ仙台平、埋木、細工、其他味噌、精等アリ。又近傍ヨリ良馬、生糸ヲ産ス。

第十四課 實盛ノ染鬢

齋藤實盛ハ、鎮守府將軍利仁ノ後ナリ、世越前ノ著姓タリ。實盛ニ至リ、武藏ノ長井ニ遷リ、源爲義及ビ義朝ニ事ヘ、勇敢ヲ以テ著ル。義朝ノ東ニ奔ルヤ、實盛等三十騎從ヘリ。山門ノ僧徒、其敗ヲ聞キ、三百騎ヲ以テ路ニ要セリ。實盛乃チ馬ヲ下リ、

胃ヲ手ニシ、僧徒ニ謂テ曰ク、左馬頭ハ既ニ死セリ、我輩ハ新募ノ兵、將ニ郷ニ歸ラントスル者ノミ。公等我ガ鎧杖ヲ禱ハント欲セバ、敢テ愛マズ。願フニ子ハ衆我ハ寡、周給スル能ハズ、請フ之ヲ抛擲セン、公等自ラ取レト、乃チ其胃ヲ投ズ。僧徒相蹂躪シテ之ヲ争フ、三十騎因テ驅突シテ過グ。後平宗盛ニ仕ヘ、維盛ニ從ヒ、源義仲ヲ北陸ニ撃テリ、將ニ發セントスル時、入テ宗盛ニ謂テ曰ク、越前ハ臣ノ郷ナリ、古ヘ稱ス、錦ヲ衣テ郷ニ歸ルト、臣今老タリ、唯一死以テ君ニ報ズル有リ、君盍

ゾ錦ノ直垂ヲ賜ハザル、臣衣テ以テ歸レバ死ストモ餘榮アリト、宗盛憫ミテ之ヲ許セリ。篠原ノ敗、實盛獨身留戦シ、敵將手塚光盛ニ薄ル。光盛ノ從騎之ヲ遮ル、實盛其騎ヲ攫シ之ヲ殺サントス、光盛之ヲ救ヒ、三人交搏シ馬ヨリ墜ツ、光盛遂ニ實盛ヲ刺シ、首ヲ義仲ニ示シ曰ク、嚮ニ一騎ヲ獲タルニ、容貌怪ム可シ、士カ錦ヲ衣レリ、將カ從兵ナシ、其姓名ヲ問ヘバ、曰ク、我が首ヲ斬リ木曾公ニ獻ゼヨ、公我ヲ知レリ、其音吐東國人ニ類セリト。義仲曰ク、乃チ齋藤別當ニハ非ザルカト、樋口



兼光ヲ召シ之ヲ視セシム。兼光潛然トシテ曰ク、是ナリ。義仲曰ク、吾別當ノ年老ヲ知レリ、今其髮黑キ者何ゾヤ。兼光曰ク、實盛嘗テ臣ト東國ニ於テ言テ曰ク、白頭軍ニ從ヘバ、恐クハ壯者ノ爲メニ侮易セラレン、吾將ニ吾ガ鬢毛ヲ染メントスト、今果シテ其言ヲ踐メリ、義仲命ジテ其頭ヲ洗ハシム、頭髮皆暗シ。義仲之ガ爲メニ泣ヲ掩ヒ、尸ヲ收メテ之ヲ葬ル、時二年七十三。

第十五課 河流ノ作用

河水ハ淡クシテ無味ナレドモ、海水ハ鹹クシテ

飲ム可カラス。然ル所以ニツキテハ、自ラ其理アリ。夫レ雨水ノ地表ニ降ルヤ、深ク地中ニ浸透シテ滙會シ、地脈ニ從テ流レ、泉トナリ、再ビ湧出シテ澗河ニ注ギ、遂ニ海ニ朝ス。其際斷エズ、土壤ニ存在セル種々ノ鹽類ヲ溶解シ去ルガ故ニ、海ハ則チ之ヲ河水ト共ニ容レテ混有ス。然ルニ其純粹ノ水ハ、常ニ蒸發シテ止マザルニ、溶解セル鹽類ハ、獨リ留リテ散ズルコトナケレバ、斯クテ歲月久シキヲ亘リ、海水ハ遂ニ變ジテ鹹トナレルナリ。彼ノ食鹽ヲ得ルハ、即チ海水ヲ蒸餾セシメ

テ、此鹽分ヲ製取スル者ニシテ、實ニ海水ヲシテ鹹味ナラシムルハ、主トシテ河流ノ作用ニ由ル。河流ハ獨リ鹽類ヲ溶シテ之ヲ海ニ致スノミナラズ、又陸地ノ岩石ヲ崩シ、泥沙ヲ洗ヒ、之ヲ載セテ海ニ輸ル者ナリ。故ニ大雨ノ後河水大ニ漲ルニ至レバ、平時清徹ノ流モ忽チ混濁シテ黃色ニ變ジ、又溪流ニ於テハ、奔湍激シテ雪ヲ噴クガ如ク、岸礮之ガ爲メ磨剝シテ皆怪狀ヲ呈シ、且ツ碎石モ片々水ニ洶搖セラレテ圓滑トナリ、累々相倚テ堆チナス、即チ此レ等皆水流ノ次第ニ陸地

ヲ削リ、海ニ運ブノ作用トナスナリ。茲ニ又其作用ノ更ニ著ルキ者アリ、即チ河ハ如何ニシテ成リタルヤト尋ヌルニ、固ト一々人力ヲ勞シテ疏通セルニ非ズ、流水ノ自然ニ穿チテ深カラシメタル者ナリ。凡ソ流水ノ砂石ヲ浚ヒテ、之ヲ海ニ輸スノ力ハ、水流ノ遲速ニ關スル者ニシテ、流レ急ナレバ其力愈強シ。故ニ河流水源ヲ距ルコト、遠カラザル處ニ於テハ、大抵水勢悍疾ナルガ爲ニ、泥沙沉澱スルノ暇ナク、其底ハ常ニ礪柯タル小石ノミチ

留メリ、漸ク流レテ平地ニ至レバ、水勢亦次第ニ  
 緩漫トナルヲ以テ、水底ニ泥沙ヲ見ルニ至リ、進  
 デ河口ヨリ海ニ注ガントスル處ニ於テハ、却テ  
 潮水ニ制セラレテ、流勢一層挫頓シ、其含有セル  
 多量ノ泥沙ヲ、此處ニ滯蓄セザル可カラザルニ  
 至ル、是レ大河ノ口ニハ、往々此ニ由テ洲島ヲ生  
 ズル所以ナリ、而シテ其狀常ニ三角形ヲナシ、廣  
 邊ハ海ニ面シ、尖頭ハ河ニ向フ、北亞米利加、  
 シッピ―河ノ三角洲ノ如キハ、其最モ著ルキ者  
 ナリ。

又河ノ形狀ハ、概子迂曲セルヲ常トス。是レ地勢  
 ノ高低向背ニ由リテ自ラ然ル者ナレドモ、之ガ  
 爲メニ人事ヲ裨益スルコト甚ダ大ナリ。何トナ  
 レバ河ノ形狀、底ノ傾斜、水積ノ多少ハ、事ノ利害  
 ニ關スル者ニシテ、若シ屈曲少キトキハ、水流迅  
 急ニ過ギ、甚ダ舟楫ノ便ヲ妨グルヲ以テナリ。且  
 又水流ノ作用ノ著ルキ例ヲ舉グレバ、沮洳ニシ  
 テ耕耘ス可カラザル土地モ、之ガ排泄ニ由リテ  
 乾燥ノ沃土トナリ、荒漠タル原野モ、之ガ灌溉ニ  
 由リテ肥饒ノ田圃トナル。其他瀟灑タル風景ヲ

呈出シテ、人ノ耳目ヲ樂マシメ、或ハ清水ヲ送テ、  
渴者ノ熱腸ヲ冷スベシ。然レドモ畢竟河ノ最モ  
大切ナル効用ハ、舟楫ヲ通ジテ運漕ノ便ヲ開キ、  
物産ヲ疏通シテ賣買ノ道ヲ進ムルニ在リ。河ノ  
利益亦大ナル哉。

第十六課 人ノ鑑

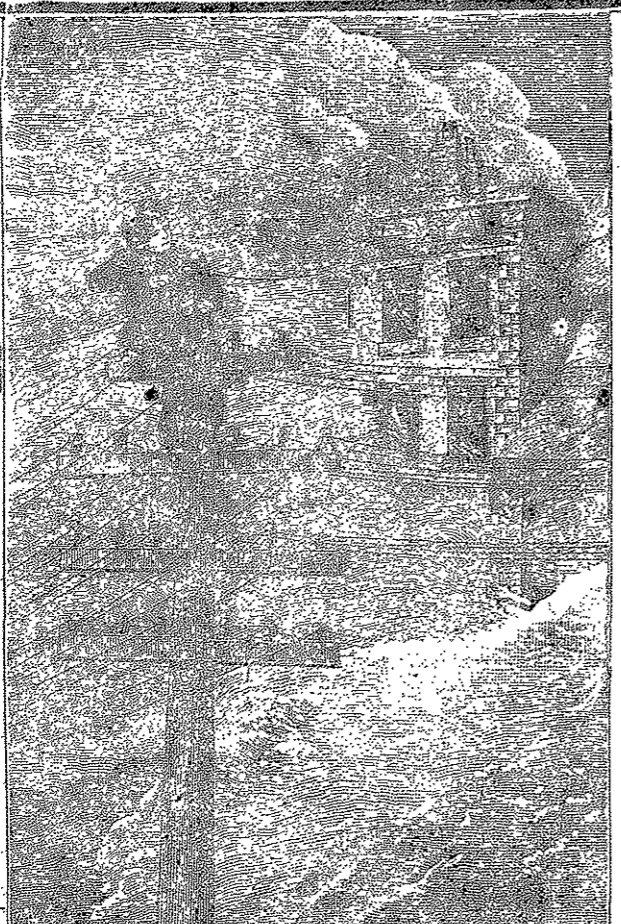
千八百八十二年一月三十一日朝ノ十時頃ノ事  
カトヨ、新約克府ナルパークロウト、ビークマン  
街ノ角ニ立チタル家ヨリ、忽チ火事コソ起リタ  
レ。時ニ此家ノ第一階ハ物置ニシテ二階三階ハ

數多ノ仕事場ニ分チタリ。此大ナル家ニハ只一  
個ノ階子アルノミニテ、是サヘ木モテ作り、且ツ  
過半ハ、木造ニテアリケルニ、頃シモ北風寒ク、皆  
乾キタル時節ナレバ、何カハ以テタマルベキ、火  
ハ忽チニ燃エ廣ガリテ、内ナル人ハ活路ヲ失ヒ、  
火炎ノ内ニ焚死シタルモノ多カリケリ。  
斯ク數多ノ焚死セル人ノ中ニ、不慮ニ命助カリ  
タルモノ三人アリ。是ハ幼キ童兒ノ心利キタル  
ト、勇氣アルトニ因リテ、救ヒ出セシナリ。事ノ趣  
ハ、次ニ詳ニ説キ出サン。

消防夫ハ、手ヲ盡シ術ヲ易ヘタレドモ、詮方ナク、  
猛火ハ建物ヲ取卷キテ、早ヤ人ノ生キテ其中ニ  
アラン様ナシト思フ頃ホヒ、上層ノ窓ヨリ纒ニ  
手ヲ伸シテ、頻ニ助ヲ求ムルモノ三人アリ。大道  
ヘ跳ビ降りナバ、忽チ骨身モ碎ケ死シナン。サレ  
ド家ノ内ハ、火早ヤ一圓ニ充チテ、入ルコト叶ハ  
ズ、煙ハ面ニ蔽ヒテ氣息サヘ塞ガリ、熱ハ膚身ヲ  
焦シテ近ヅクベクモアラズ。渦マク焰ハ三方ヨ  
リ迫リ、今ニ絶エナン玉ノ緒ヲ繫ナグ術サヘ、中  
々危クコソハ見エタリケリ。

消防夫ハ逸早ク梯子ヲ擔キ來ツレドモ、短クシ  
テ用ヲナサズ。最モ長キモノダニ、僅カ家ノ半ニ  
モ及ブモノナク、終ニハセンスベ盡キ果テ、ア  
レヨ／＼ト呼フバカリ、救ヒ出サン様モナク、見  
殺シニセシコトノ本意ナサヨト、皆手ニ汗ヲ握  
リテゾ立タリケル。斯クテ今焚ケ死ナントスル  
三人ヲ、只憐ヤト言フノミニテ、注視シ居ケル群  
集ノ中ニ、靴磨キヲ職トシテ、世ヲ渡ル一人ノ兒  
童アリ、名ヲチャーレーライトト呼ビケリ。フト  
一策ヲ案シ出シ、辛クモ之ヲ行ヒテ、其消ナント

科用...  
 スル玉ノ緒ヲツナギ留メケルコソ殊勝ナレ。  
 其始終ヲ尋ヌルニ、チヤーレー、ライトハ、衆人ニ  
 連レテ同ジク上ヲ眺メテアリケルガ、フト三人  
 ノ立テル窓ノ上ニ、針金ヲ斜ヒテ造レル索アリ、  
 其索ハ街ノ對側ナル電信柱ニ連リタルニゾ心  
 付キケル。柱ノ頂ニ登リテ、此索ヲ絶チタランニ  
 ハ、正シク窓ノ前ニ垂ルベシ。サアランニハ三人  
 共ニ之ヲ傳ヒテ降り得ント思ヒケリ。  
 一刻タリトモ嫌疑スベキコトニアラ子バ、側ナ  
 ル石ノ上ニ置ケル、消防夫ノ釘抜オツ取り、急ギ



街ノ彼ノ方ヘト走り行キ、高ク立テル電信柱ニ、  
 直ニ手ヲカケテ登リ始メ又、風吹キ雪サヘ降り  
 シカバ、手ハ凍エ、柱ハ滑リテ、容易キコトニアラ  
 ザリケレド、必  
 死トナリテ攀  
 チケレバ、間モ  
 ナク頂ニ登リ  
 ツキケリ、斯ク  
 テ針金ノ索ニ  
 モ達シタレバ、

力ヲキハメ釘拔モテ之ヲ子デケルニ辛ウシテ  
索ハ切レケリ切レテ窓ノ前ニ垂レ下レバ群集  
ハ之ヲ見テ是ゾ命ノ綱ナレト歡呼ノ聲暫クハ  
鳴リモ止マズ三人ハ不思議ニ一人ヅ、此索ヲ  
傳ヘ降りテ死スベキ命ヲ助カリケリ。  
當初ハ三人ノ降ルヲノミ見テアリケレバ此勇  
智アル兒童ヲバ忘レシ如ク見カヘル暇モナカ  
リケレドモ今ハ皆チヤーレー、ライトヲ圍ミテ  
其名ヲ稱ヘ其必死ノ時ニ臨ミ機智ヲ出シテ爲  
シタル即坐ノ勳キヲ賞メ又モノトテハナカリ

ケリ然レバ亞米利加慈善會ハ投票シテ此ケナ  
ダナル勇智ノ小兒ニ賞牌ヲ贈リ遙ニ遠キ國々  
ニマデ其名高ク聞エシカバ龍動慈善會モ之ニ  
一個ノ金牌ヲ贈リ牌面ニ千八百八十二年一月  
三十一日三人ノ生命ヲ救ヒタルガ爲メニ贈呈  
スルモノナリトゾ彫付ケルチヤーレー、ライト  
ノ智勇ノホド賞スルニ猶餘リアリ。

第十七課 奇橋

旅伴 迥カニ見ユル群猿ハ今將ニ此處ニ來ラ  
ントス其レニハ必ズ彼ノ處ナル岩頭ヨリ河ヲ

利原云云言フニ一節ニ  
渡ルナルベシ。

記者 如何ニシテ其力能ク之ヲ渡リ得ベキヤ、  
游ギ渡ランカ、此激流ヲ如何セシ。

旅伴 否々、猿ハ甚ダシク水ヲ忌ミ嫌フモノナ  
レバ、寧ロ火ニコソ入ラメ、決シテ河ニハ入ラジ、  
故ニ若シ流ニシテ跳リ越ユルコト能ハズンバ、  
互ニ橋ヲ組ミテ渡ルベシ。

記者 橋ヲ架スルトヤ、是ハ不審カシ、如何ナル  
方便ヲ以テ能ク之ヲ爲スヤ。

旅伴 待タレヨ、須臾ノ後君自ラ看シ。猿聲漸ク

囂クシテ、其近ヅクヲ知ル。首ヲ舉ゲ目ヲ注ゲバ、  
群猿予等ガ坐スル方ニ向テ歩ヲ進メ、既ニシテ  
對岸ニ達スルヲ觀ル。

白頭ノ一老猿アリ、是レゾ將軍ナラン。次ニ猿軍  
ヲ指揮スルモノアリ、是レ士官ナルベシ。群猿ノ  
運動ヲ見ルニ、正ニ兵隊ノ行軍スルニ髣髴タリ。  
一ノ士官先ヅ突出セル巖頭ニ走り出デ、河流  
ニ臨ミ、對岸ヲ望見シ、直ニ還テ大將ニ告グル所  
アルニ似タリ。是ニ於テ命ヲ隊中ニ傳ヘテ前面  
ニ進行セシム。



此際數猿アリ、所々ニ奔走シテ兩岸ノ樹木ヲ相  
 ス。是レ五兵士官トモ謂フベキカ、既ニ地ヲ相シ、  
 既ニ樹ヲ相ス、今ヤ全軍河幅ノ最モ狹キ所ニシ  
 テ、一喬木ノ立テル下ニ集リ、軍中最モ強健ナル  
 第一猿、先ヅ其樹ニ攀チ登ル。  
 攀チテ樹ノ頂ニ達シ、殊ニ河ニ臨メル高枝ノ上  
 ニ走り出デ、尾ヲ以テ之ヲ纏フコト數匝、手足ヲ  
 放チ頭ヲ倒マニシテ懸ル。第二猿尋デ進ミ、第一  
 猿ノ體ヲ過ギ、其頸ト腕トニ亦己レガ尾ヲ卷キ、  
 頭ヲ下ニシテ垂ル。

第三猿來リ、亦第二猿ノ下ニ連リ、第四、第五、第六  
 等、續キテ連々垂下シ、斯ノ如ク遞次數ヲ増シテ  
 十四五猿ニ及ビ、宛モ一連ノ鏈ヲ作り成セリ。是  
 ニ至リテ其最モ下級ニ在ルモノハ、其手殆下地  
 ヲ摩スルヲ得。  
 斯クテ此猿鏈漸ク對岸ノ方向ニ振搖ヲ始ム。當  
 初ハ遲緩ナレドモ、最下ノ猿手ヲ以テ毎ニ地ヲ  
 拍チ、其勢ヲ助クルニ由リ、速力次第ニ加ハリテ  
 水上ニ左右ス。  
 既ニシテ振搖彌烈シク、鏈端方ニ予等ガ坐シタ

ル岸上ニ立テル樹木ノ枝ヲ掠ムルニ至ル。是ニ於テ鏈端ノ一猿、手ヲ以テ其枝ヲ握ルコト甚ダ緊シ。而ルモ其爲ス所最モ巧ニシテ、俄ニ運動ヲ止ムルガ爲メニ、劇衝ヲ受クルノ患ナシ。一連ノ猿、既ニ兩樹ニ附シテ宛然懸橋ヲ爲セバ、餘ノ四五百ノ猿直ニ群ガリ上リ、疾走飛ブガ如クニシテ過グ。其際橋ヲ成セル鏈猿ノ顔貌ヲ注視スルニ、響震百端甚ダ奇ニシテ、人ヲシテ捧腹絶倒セシム。

鏈猿ノ時ニ或ハ己レヲ踏デ過グル猿ヲ踏ミ、痛



ミニ叫ビ、苦ニ啼カシムルコトアリ。蓋シ以フニ橋錢ヲ課スルノ心ニモアランカ。予等ノ伴ヘル兒童ハ、之ヲ看テ歡笑スルコト限リナク、聲ヲ發シ手ヲ拍テ嬉シメリ。既ニシテ群猿盡ク予等ガ在ル所ノ岸ニ渡リ了レリ。然レドモ残りテ橋

ヲ成セル猿ノ、如何ニシテ能ク渡リ得ルカハ、予  
等未ダ知ル能ハザルナリ。只對岸ノ樹ニ懸レル  
第一猿ノ尾ヲ放タザルベカラザルヲ知ルノミ。  
然レドモ予輩ノ方ナル橋端ハ、對岸ノ橋端ニ比  
スレバ甚ダ低シ。若シ第一猿ヲシテ其尾ヲ放タ  
シメバ、此レト俱ニ五六頭ノ猿ハ、水ニ陥ルカ、或  
ハ巖石ニ觸レ碎カレテ死センモ料ラレズ。  
二三ノ生命ハ、全猿ヲ利濟スルガ爲メニ犧牲ト  
シテ顧ミザルカ、將タ別ニ工兵士官ニ巧妙ノ機  
智アリテ、能ク橋ヲ成スノ猿ヲ全ウスルヤト、予

等瞳ヲ定メテ之ヲ注視スルニ、此難問題ヲ解ク  
ノ甚ダ容易ナルヲ見出セリ。  
一猿出デ、低キ方ノ橋端ニ其尾ヲ接合スレバ、  
數猿亦此ノ如クシ、猿鏈ノ數十一ニ多クス。因  
テ故枝ヲ去リ、稍高ク梢ニ攀テ登リテ、正ニ對岸  
ノ高サト平等ナラシム。  
一個ノ士官大號シテ準備既ニ成ルヲ告グレバ、  
忽ニシテ、彼端離レ、河ヲ超エテ飛ビ來リ、橋ハ跡  
ナク、群猿盡ク森中ニ走り入り、寂トシテ只流水  
ノ聲ヲ聞クノミ。

科用普通讀本二編下終

高等普通讀本二編下終

社会科

明治二十年四月七日版權免許  
同年五月出版  
同年九月九日訂正再版御届  
同二十二年八月二十五日參版御届

定價金十六錢

東京府平民

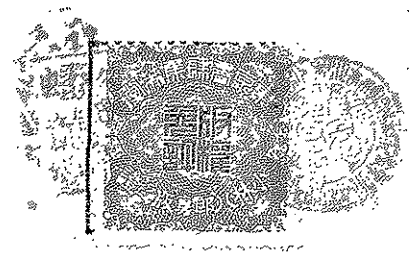
編者 高橋熊太郎

下谷區竹町一番地

東京府平民

出版人 小林八郎

日本橋區通旅籠町十一番地



明正
42